

令和3年11月12日
愛媛大学

令和3年度愛媛県海洋教育交流会を開催

愛媛大学教職大学院では、このたび令和3年度愛媛県海洋教育交流会を下記のとおり開催します。このイベントは、持続可能な社会づくりを目指して、海洋教育に取り組む小学校、中学校、高等学校、愛媛大学（南予水産研究センター）、愛媛大学教職大学院の児童・生徒・学生が取組の交流を目的に実施するものです。Web会議システム（Zoom）を使ったの異校種による交流会は、GIGAスクールの中で注目される取組となります。

つきましては、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

記

日 時：令和3年11月20日（土） 10時00分～11時30分
場 所：愛南町立福浦小学校、宇和島市立城南中学校、愛媛県立長浜高等学校
対 象：小中高学生、保護者・地域住民 など
定 員：500人
参加方法：Zoomによる参加
駐 車 場：有

本件に関する問い合わせ先

担当部署 愛媛大学教職大学院

担当者名 山本 浅幸

TEL：089-927-9525

Mail：yamamoto.asayuki.bw@ehime-u.ac.jp

※送付資料5枚（本紙含む）

令和3年度愛媛県海洋教育交流会

海洋教育をテーマに、福浦小学校、城南中学校、長浜高等学校、南予水産研究センターのオンラインによる異校種学習交流会を実施します。

📅 日時:11月20日(土) 10:00~11:30 (ZOOMの入室は9:30より受付)

📍 場所:オンライン WEB会議システム (ZOOM)

📄 ミーティングID: 930 1780 0251 パスコード: 602406



【なぜ今、海洋教育なのか】

海洋は水の循環の根源として、生活に水が不可欠な私たちの生命維持を支える存在であると同時に、多様な生物や天然資源など、経済の発展に寄与する資源を確保する場でもあります。したがって、「海洋と人類の共生」は、我々人類にとって重要な課題のひとつです。しかし現在、我々の生活によって海にゴミが漂い、水質は汚染され、海洋生物の減少が起きています。

四方を海に囲まれた日本は、古来より海から様々な恩恵を受け、海と密接な関係を持って生活を営んできました。現在、その大切な海が危機的状況にあり、次世代へ受け継いでいけない可能性があります。我々は、海の恩恵を次世代に受け継ぐために、海洋環境を改善しつつ持続可能な開発・利用を目指さなければなりません。そして、これを可能にする人材を育成することを目指すのが「海洋教育」であります。子どもが海に親しみ海の現状を知ること、海を守りながら利用するということを目指す海洋教育について、各学校が問題意識を持って推進していくことが求められています。

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、2030年までの達成を目指す国際的な目標です。そこに記された「SDGs (持続可能な開発目標)」には17の目標が設定されています。その中にある「気候変動に対する具体的な対策を (目標13)」「海の豊かさをまもろう (目標14)」は今回の交流会の主題である「海洋教育」に深く関わるものです。SDGsは全ての国々の目標であり、当然日本も積極的に取り組んでいるため、皆さんも耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

今回、海洋教育を推進する各学校が交流し、協力していくことを目標に「海洋教育交流会」を開催します。南予地域の小学生、中学生、高校生と愛媛大学の学生・院生とが海洋教育をテーマに交流します。今日を機に、海に興味を持つ人が増え、海洋教育の取組みが充実していくことを願っています。

愛南町立福浦小学校
海洋教育バイオニア
スクールプログラム

海洋教育
海に親しみ、海を知り、
海を守り、海を利用する

宇和島市立城南中学校
沖ノ島自然保護活動
44年間継続した地域と
連携した自然保護活動

愛媛大学
南予水産研究センター
地域と連携し、
「新しい水産学」を拓く

愛媛県立長浜高等学校
長浜水族館
ハイスクールは水族館

主催：愛媛大学教職大学院
後援：愛媛大学社会連携推進機構



海洋教育研究指定校 **愛南町立福浦小学校**

もっと知りたい!
福浦小→→



貝殻アート

これまでの学習活動

福浦のことを考えながら
自分なりの作品が作れた。
(5年・谷口桂都)

チリメンは、大きくなった時と
形がちょっと違うなど思った。
(6年・後藤愛華)



ちりめんモンスター

「親しむ」・「知る」・「守る」・「利用する」

長浜高校体験・見学

海岸清掃

大西水産での学習



1つ1つの水そうに名前が
書かれていて、それぞれを
高校生が担当していることを
知れた。(6年・猪野結人)



外国のペットボトルが
流れついていたことに
びっくりした。
(6年・和田結倫愛)



今の養殖は、スマホとかで
エサをやれるので、とても
進化しているんだと思った。
(6年・菅原遥斗)



「三浦保」愛基金
助成事業 **宇和島市立城南中学校**

もっと知りたい!
城南中→→



沖の島自然保護活動

宇和海中学校が城南中学校に統合される際に引き継がれた、宇和海に浮かぶ沖の島にハマユウを移植する活動。年に2回有志生徒が沖の島へ行き、学校で約2年間育てたハマユウの苗を島に移植する。また、ごみ拾いなどの清掃活動も行い、近年では海岸の砂を持ち帰ってマイクロプラスチックの調査も行っている。

★
1978年～

2021年

今年で44年目



生徒会の3人に聞いてみました

Q: はまゆうを育てるときに大変なことは?

A: 葉の表にも裏にもハマオトヨトウムシは潜んでいるので、一枚一枚葉をめくりながら丁寧に見なければいけないこと、たっぷり水をやるが大変ですが毎日見ていると成長しているのが分かって楽しいし、美しい花が咲くので育てがいがあります。
(副会長・山本祐希)

Q: 保護活動を通して考えたことは?

A: とてもやりがいや達成感を味わうことができます。沖の島に行ったときには、はまゆうが育つ環境に加えて地形や海洋ゴミのことも学ぶことができました。この活動を通して、環境問題のことを勉強できる学校に進学し、将来は海洋保全に貢献する人材になりたいと思いました。
(生徒会長・森岡恵輔)

Q: 今後の展望はありますか?

A: 宇和島中にはまゆうを植え色々な所にきれいな花を咲かせられたらいいと思います。そして、そのきれいな花を見ることによって、宇和島の海などの自然を保護する気持ちが高まればいいと思います。
(副会長・越智圭吾)





ハイスクールは水族館

愛媛県立長浜高等学校

もっと知りたい！
長浜高校→→



重点努力目標

生徒一人一人を大切にする教育の推進
～自主自律と進取の精神を身に付けた長高生の育成を目指して～

長高水族館

国内初の
高校内水族館

150種 2000点の
海の生き物を展示

水族館を活用した
オリジナル授業

毎月第3土曜日
に一般公開！



【クラゲの繁殖を長高で初めて実践】

高1のとき、友人とクラゲの繁殖を始めました。日々の世話を徹底していて、時には帰りの電車に乗り遅れることもあります。普段、海水浴場などでクラゲを見てもその命の尊さを感じることはあまりないと思います。でも繁殖をしていると、そうしたことに気づくことができ日々やりがいを感じています。

卒業後は魚を養殖する会社に就職します。今まで以上に美味しい魚を養殖させることが僕の夢ですね。

長浜高校は一人一人が輝ける場所で、水族館部は自分のやりたいことを実践できる部活です。小規模校という良さを残しながらもっとにぎやかな学校になってほしいと思います。
(3年・渡部 楓生)

【ミノカサゴ・カサゴの飼育を3年間担当】

この水族館で、一番長生きしていたミノカサゴとカサゴをずっと育ててきました。ミノカサゴの毒針に気を付けたり、エサを平等にあげたりするのが大変でした。病気になっても回復してくれた時は「本当に生きていてくれてありがとう」と思いました。

入学して一番良かったことは、公開日に接客の経験ができたことです。小さな子ども達と話していて、自分は保育士に向いていると思うようになりました。将来、保育士として、地元である長浜に戻ってきたいと思っています。

(3年・富永 千夏)



地域と連携し「新しい水産学を拓く」

愛媛大学南予水産研究センター

もっと知りたい！
南水研→→



どこにあるの？

愛媛県の
松山市と愛南町を
拠点に活動中！

どんな研究をしているの？

- ① 水産経済・経営
- ② 赤潮・魚病対策
- ③ 新養殖種や養殖システムなど
海や魚に関する研究をしています。

研究紹介

私はスマという魚をテーマに研究をしています。今よりもより良いスマを作るために、スマの卵や仔魚を使って実験をしています。
(南水研・賀屋啓太)

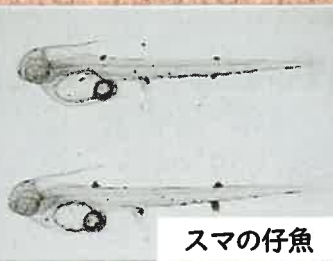
松山市に1ヶ所、愛南町に2ヶ所の拠点があるよ！
愛南町の拠点は旧西浦小学校(H23年閉校)や旧西海町役場を活用しており、遊休施設活用の一助となっています。

研究活動以外にも、地域の祭りへの出展など様々な地域連携活動にも力を入れています！



スマ

地域の祭

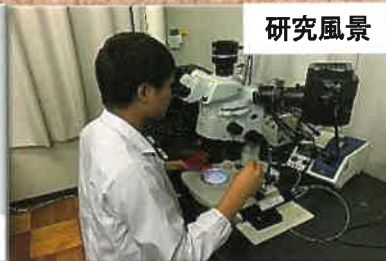


スマの仔魚



スマの卵

研究風景



海洋教育交流会 ～当日の日程～



- 1 開会の挨拶
- 2 愛南町立福浦小学校による発表
- 3 宇和島市立城南中学校による発表
- 4 愛媛県立長浜高等学校による発表
- 5 南予水産研究センターによる発表
- 6 閉会の挨拶



海洋教育ラボメンバー

愛媛県で生まれ育った私にとっての『海』は実際の距離こそ近くないものの、生活の中では身近に感じる事が多くあります。愛媛県の水産業が社会科の授業で取り上げられているのは、皆さんの記憶にあるのではないのでしょうか。

海が身近にあるからこそ気づくことの出来なかった海の大切さについて、次世代を担う子どもたちと様々な体験や活動を通して、共に学びを深めていきたいと思えます。
教育実践開発コース：糸野 紗依



私は幼い頃から生き物に興味があり、祖父と釣りに行ったり、磯遊びをしたりするのが好きでした。一方で、海岸には多くのプラスチックゴミが打ち上げられているのを目にして、海洋汚染やゴミの問題を実感し、環境保全に興味をもちました。大学では、環境問題について学びながら、地域の自然の魅力を地元の小学生に伝えるボランティア活動にも取り組みました。

今回、海洋に関わる活動に取り組んでいる学校の方々と交流出来る機会を頂き、とても興味深く、楽しみにしています。交流会で皆様のお話を伺い、多くを学ばせていただきたいと思えます。また、この交流会で各々が意見交換し、活動を共有し、連携して、さらなる発展に繋がることを願っています。
教科領域コース(理科)：柳田 直哉

海っていいよね！
みんなで海について勉強して、
海を守っていきましょう！
海、大好き！！！！



教科領域コース(国語)：村井 裕弥

趣味の一つが、タコ突き。
船の上からタコを探す
ひとときが、大好き！！
捕ったタコで、一杯。
これまた、大好き！！



愛媛大学教職大学院特定教授：山本 浅幸

海洋教育ラボ
メンバー随時募集中！
お気軽にご連絡ください

愛媛大学教育学部本館2階

山本 浅幸 研究室

TEL:089-927-9525

MAIL:yamamoto.asayuki.bw@ehime-u.ac.jp